

はじけるこころ

Vol.41

まいにち学校 まいにち街 中のこどもの笑顔につなげる

発行 箕面市人権教育推進会議
箕面市教育委員会 人権施策課

TEL 072-724-6921
FAX 072-724-6010

E-mail:eduinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成27年度



みのお市民人権
フォーラム30th 報告

◆全体会

テーマ 人と人をつなぐ詩と音楽の協奏
く音をつむぐ 言葉をつむぐ 想いをつなぐ

講師 谷川俊太郎さん（詩人）

谷川 賢作さん
(ピアニスト、作・編曲家)

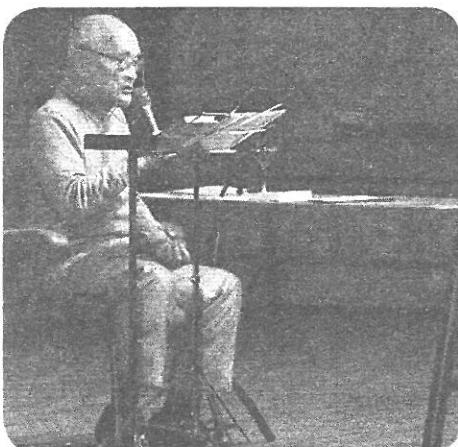
い続けてきた谷川俊太郎さんの言葉が、谷川賢作さんの奏でる優しい音色につながる。それはまさに、参加者の心と心をつなぐような、詩と音楽の協奏でした。

（事務局 五十嵐直人）

12月5、6日の2日間にわたり、市内各所でみのお市民人権フォーラム30thが開催されました。

全体会ではまず、みのお市民人権フォーラムが第30回の節目を迎えたことによる周年事業で、人権に関する様々なメッセージを募集した「ヒューマンメッセージ大賞」の表彰が行われました。1200を超える作品が集まり、入賞された方々に各賞が贈られました。中小学生からの応募が非常に多く、たくさんの子どもたちが表彰されている姿が見られました。

続けて講演会が行われました。詩人の谷川俊太郎さんとピアニストの谷川賢作さん、親子による夢のよな共演でした。詩を通して「人が生きている」とに向きました。



もくじ
みのお市民人権フォーラム30th 報告

全体会

「人と人をつなぐ詩と音楽の協奏
く音をつむぐ 言葉をつむぐ 想い
をつなぐ」

第1分科会

「選挙権年齢の引き下げ 政治への
関心を高めるためには」

3

第2分科会

「今、一番大人も受けたい部落問題
の授業」

2

第3分科会

「女性が起業するとき～～貧困から
抜け出すパワーガール～～ある～」

3

第4分科会

「求められるのはリアルの「ミユニケー
ション力」スマホ時代の子どもたちの
トラブルと対策」

3・4

第5分科会

「障害の有無によって分け隔てられる
ことのない街、箕面へ～明石市の障害
者差別解消条例に学ぶ～」

2

第6分科会

「「ヘイトスピーチ」って何?～ドキ
ュメンタリー映画「ヘイトスピーチ」
を観て考える～」

4

コラム「差別落書きをなくそう」

「アリオバトルを通して仲間つながる」

6

司書さんのおすすめ本
「アリオバトルを通して仲間つながる」

7

人権学習の取り組み紹介
聖母被昇天学院のアイヌ民族学習会

8

ご意見・ご感想

みのお市民人権フォーラム30th分科会報告

◆第1分科会「地方自治」

テーマ 選挙権年齢の引き下げ

政治への関心を高めるためには、

コーディネーター 筥島 専さん

(大阪大学大学院法学研究科教授)

パネリスト

倉田 哲郎さん (箕面市長)

新有権者をはじめとする若者

今年の参議院議員選挙から適用される「選挙権年齢の18歳以上への引き下げ」について、パネルディスカッションを行いました。

若者に限った話ではありませんが、「政治」は遠くにあるものだという印象を持つ人が多いのではないでしょうか。そんな意

見が出た中で、倉田市長から「身近な政治」についてのお話がありました。ある中学校の女子生徒が、倉田市長に「トイレを直して。」と伝えたのをきっかけに、学校のトイレ修繕が行われたのです。市民からの身近な問題をとりあげ、それに応える。それがまさに『政治』だというのです。パネリストの学生からは国立大学に対する身近な問題として、建物の老朽化や図書館資料が少ないとなどが挙げられました。しかし、「政治家になつたら何をするか」という問い合わせに対しては、「一丁の普及」「少子高齢化」「沖縄に関する問題」「安保・外交に関する問題」などがあげられました。

「政治」にならぬものとして挙げられることが多いですが、どうして「大きな話」になつてしまうようになります。若者が政治をより身近なものに感じられるようになることが、政治への関心を高めるための一歩になるのではないか。

(事務局 五十嵐直人)

問題」に興味があるという意見が出ます。どれもとても重要なことです。どうして「大きな話」になつてしまうようになります。若者が政治をより身近なものに感じられるようになることが、政治への関心を高めるための一歩になるのではないか。

◆第2分科会「部落」

テーマ 今、一番大人も受けたい部落問題

の授業

講師・ファシリテーター 武田 緑さん

(一般社団法人「アプラス」)

模擬授業講師 佐藤 秀昭さん

大坪 研介さん

(萱野小学校教諭)

今年は、高校生以上を対象とした部落問題に関する二つの授業を、ワークショップ形式で行いました。

ひとつ目の授業は、班によつてあらかじめ持つている金額が大きく違うという設定の「不平等オークション」でした。健康やコミュニケーション力といった人生に必要な能力が、オークションに出品されます。オークションが始まると、もともと持つている金額の違ひから、一部の参加者しか落札できないという状況になり、「こんな不平等なやり方でいいのか?」と多くの参加者が疑問を感じました。貧困や部落出身など、不平等な状況にあるマイノリティの気持ちは、常に気付くことができました。



(萱野小学校 佐藤 秀昭)

◆第3分科会「女性」

テーマ 女性が起業するときー

く貧困から抜け出すパワーガールにある

講師 佐々木 妙月さん

(情報の輪サービス株式会社 代表取締役)

最近、「女性の貧困」とよく耳にしますが、これまで顕在化していなかつただけで、以前から貧困状況の女性は少なくありませんでした。この問題について、女性の就労を支援されている佐々木妙月さんから話を聞きました。

佐々木さんは転職活動がなかなか順調に進まなかつたという自身の経験から、女性として、女性のための就労支援をしようと「情報の輪サービス株式会社」を立ち上げました。この「情報の輪」という社名には、女性に今必要な情報を提供し、人や会社とつながつていつてほしい、という願いが込められています。

働きたい女性と企業とのマッチング事業からはじめ、時代に関係なく生きていけるような人材を増やすという思いで、研修事業にも取り組みました。その後、社会全体が不景気となり、ますます女性の雇用が難しくなる中、特にシングルマザーの雇用が深刻だつたため、国の緊急雇用事業を活用して、ひとり親世帯の支援に着手しました。ひとり親世帯の現状は、働くのもなかなか貧困から抜け出せず、また、忙しくて相

談ができず、社会から孤立しがちです。そ
うならないために、シングルマザーたちが
ネットワークをつくり、レイアウト等、自
分たちで企画した食堂を一から一緒に作
ることで、新たな雇用の場を生み出しました。
「本当の貧困はお金の問題ではなく、孤
独やつながりがないこと」という佐々木さ
んの言葉が心に残りました。女性だけでな
くあらゆる人の孤独をなくす。人と人との
つながりの大切さを考えられました。

(事務局 五十嵐直人)

◆第4分科会「教育（こども）」

テーマ 求められるのはリアルの「コミュニ
ケーション力」スマホ時代の子ど
もたちのトラブルと対策

講師 石川 千明さん
(NPO法人 奈良地域の学び推進機構 理
事、京都府警ネット安心アドバイザリー
ダー)

実の世界（リアル）の中で楽しみを見出す
ことができずにいます。そのため、ネット
の世界から抜け出せなくなることがあります。
また、ネットで出会いを求めている子
どもは、家庭や学校に自分の居場所がなく、
寂しさを感じていることが多いようです。
寂しさを感じていることが多いようです。
ネットで出会う大人は、優しい言葉で話
かけてるので、ついそこに居場所を求めてし
まいります。しかし、子どもたちにインタビ
ューをすると、「本当は親に話を聴いてほ
しい」という本音が見えてくるそうです。
家庭や学校が子どもたちにとって、楽しみ
や喜びが感じられる居場所となるようにな
人が気をつけなければいけない」とがよく
わかりました。

最後に、「今、まさに目の前にいる子ど
もたち」への対策について、具体例をあげ
ていただきました。子どもたちの毎日で実
際に起つりそうな場面をドラマにした動画
を見て、問題になりそうなことをワークシ
ートに記入し、グループで交流したり、全
体で共有したりする時間もありました。と
てもわかりやすくするためになる講演でした。
石川さんが「子どもたちに『ネットに詳
しい人を知っているから、困ったことがあ
つたら相談してね』と伝えてください。」
と言われたことが印象に残りました。大人
が子どもたちにとって安心できる相談相手
になることが、一番大事なことだと感じま
した。

(第一中学校 森崎直幸)



◆第5分科会「障害者」

テーマ 「障害の有無によって分け隔てられること」とのない街、箕面へ～明石市の障害者差別解消条例に学ぶ～

講師 金政玉さん
(明石市福祉部福祉総務課障害者施策担当課長)
聞き手 大道広子さん
(箕面市在住障害者市民)
進行役 新居良さん
(豊能障害者労働センター)

今年4月より施行される「障害者差別解消法」に合わせ、全国各自治体で条例の策定等、具体的な動きが展開されています。その中でも先進的な明石市の取組について、担当課長である金政玉さんからお話を伺いました。

明石市では昨年度から障害者施策担当を

新設し、「誰もが住みやすいまちに向かう3つのステップ」というプランを策定、それに沿って取組を進めています。ステップ1は、「明石市の様々な活動に、手話を言語として確立させること」、ステップ2が「手話、要約筆記、点字、音訳など、障害者のコミュニケーション手段の利用を促進する条例を成立させる」と、そしてステップ3が「障害者差別解消条例を成立させること」です。現在、ステップ2までは終わり、ステップ3の成立をめざしているところだそうです。

明石市障害者差別解消条例制定に向けては、多方面から理解が得られるよう、幅広いメンバーに議論、調整を図つてもらうとともに、検討段階から「当事者参画の機会の確保」を進めています。例えば、「障害を理由とした差別と思われる事例の公募」「市民フォーラムの実施」「タウンミーティングの実施」等です。

この条例では、市民や事業者が合理的配慮を提供する際の費用を、公的に助成する等の内容を検討しています。しかし、条例は制定することが目的ではありません。めざすのは「障害のある人も、ない人も、誰もが住みやすいまち」を作っていくことです。様々な取組を進めていく自治体と住民が、この考え方を忘れないということの大切さを実感した分科会でした。

(事務局 橋本敏)

◆第6分科会「在日外国人」

テーマ 「ヘイトスピーチ」って何?
「ドキュメンタリー映画「ヘイトスピーチ」を観て考える

講師 佐々木航弥さん (映画監督)

大阪芸術大学の一人の学生が「ヘイトスピーチ」デモとそれに抗議する人たちの姿を目に見て、「どうしてこんなことが?」と衝撃を受けました。二人は対立する双方に率直な疑問をぶつけ、卒業制作としてドキュメンタリー映画を作りました。これが内外で高い評価を受けています。この分科会の講師はその学生の一人、映画監督の佐々木航弥さんです。

まず映画が上映されました。前半はヘイトスピーチ、後半は反ヘイトスピーチに関する内容でした。

ヘイトスピーチに関する内容では、見るに堪えない侮辱的プラカードと国旗が林立する悪口雑言のデモ、それに抗議する人々、両者へのインタビュー等が続きます。ヘイ



トスピーチをする側は「個人的恨みはないが彼らは劣った民族だ」「日本を守るためにしている」「入管特例法を廃止せよ」といつた意見がありました。

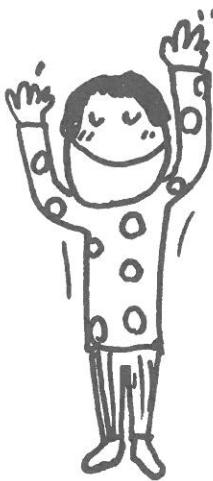
後半は、繰り返されるヘイトスピーチから御堂筋を取り戻すため行われた『仲良くしようぜパレード』の様子です。誰もが参加しやすく楽しいパレードになるよう入念な準備をし、そして、プラカードも旗もない、「仲良くしようぜ」「一緒に歩こう」という言葉が連呼される1500人のパレードが実現したのです。終了後、感動で泣き出すスタッフ。最後は、全国に広がる反差別パレードの映像と国連人権委員会勧告の字幕でした。ヘイトスピーチに抗議する側は「ただの悪口ではない。違うグループや社会的少数者への言葉の暴力だ。」という意見がありました。また、「これは日本人全体の問題だから国が止めるべき」とだ。なのに、現状では一般市民がリスクを冒して止めようとしている。しかも、ヘイトスピーチ側を守るために、私たち反ヘイトスピーチ側を警察が取り締まるのはおかしい」という意見がありました。

映画に続いて、佐々木さんによる講演がありました。「きっかけはテレビ報道だが、自分は元々政治にも在日外国人にも無関心だった。ヘイトスピーチの常習者に接したら普通の人。危害を加えられた訳でもないのに、この問題では豹変する。ヘイトスピーチに抗議するのはほとんどが在日外国人

の人だった。在日外国人の人が多く住んでいる大阪の人にとって、この問題は身近なはずだ。知らない顔はしないで欲しい。規制する法律はなくても、市民の圧倒的良心で事態は良くなると思う。」

佐々木さんのような、社会の矛盾に目を向け、考え、行動する若者の存在は心強い限りです。

(編集委員 長瀬尚)



コラム

差別落書きをなくそう

平成26年11月、中央生涯学習センターや、特定の民族を誹謗中傷する差別落書きが、また、平成27年1月には市役所本館ロビーで、障害者に対する差別用語を使った落書きが発生しました。そして、平成27年12月には、市内の店舗内のトイレでも、類似した民族差別落書きが起っています。差別落書きは、差別や偏見に基づき、相手を傷つけ、侮蔑する言葉を使ったものです。人の心を傷つけるとともに、見た人に新たな差別意識を植え付けて、偏見を助長、拡大させることでそれがあり、見過すことなどができないものです。本市では、これまでも機会があるたびに差別解消のための啓発に努めてきましたが、未だにこのような事件が後を絶たないことに強い憤りを感じざるを得ません。差別用語を使い、障害者や在日外国人の人権を傷つけ、生きる意欲を失わせるものです。本市は、多様な個性をもち、多様な背景を持つ人々から構成されるまちであり、これらすべての人々にとって、排除・対立の関係ではなく共存・共生のまちを築くことが、本市の目標であることは言うまでもありません。

本市としては、今後とも人権擁護、反差別の取組を続けていく決意です。全市民がこうした差別行為に対する怒りを新たにされ、差別について自らの認識をさらに深められるよう訴えたいと思います。

司書さんの おすすめ本。

ビブリオバトルを通して
仲間とつながる

第六中学校の一年生が、国語の授業で「本を通して人を知る」活動としてビブリオバトルを行いました。各クラスで予選を行い、最後に最も読んでみたいと感じた1冊（チャンプ本）を決めました。決められた時間内で自分の選んだ本を自由にアピールできるというこの手法は、本を通じて友達の新たな面を知り、生徒同士の理解にも大きくながつたように思います。例えばAくんは、読書はあまり好きではなく、スポーツが得意です。そんな彼が紹介した本は『ネイマール 父の教え、僕の生きかた（①）』でした。Aくんは、自分の好きなスポーツの世界を生き生きと紹介し、決勝戦まで進んだものの、チャンプにはなれませんでした。けれど、その顔には自分を認めてもらえたことへの嬉しさと、好きなものに対する自信に溢っていました。そのクラスのチャンプ本に選ばれたのは、Bくんの紹介した『君がいてくれたから 日本一しあわせなどうぶつ病院の話（②）』でした。彼は動物病院の世界を知ることで、これまで興味がなかつたいろいろな動物に対する関心につながったことを語ってくれました。どの生徒も「またやりたい」「次はこの本を紹介してチャンプを狙いたい」と意欲は高まり、充実した時間を楽しんだようです。読書教育

の新たな手法の一つとして今後も継続して取り組み、子どもたちの読書への関心を高め、生徒同士の関係を深める」とにもつなげていきたいと思います。



● 生徒の感想

Aくん

「僕は司会をしました。司会から見ると、いつも楽しそうにしている人も緊張していて、ほほえましかつたです。実は、僕は今、ある本にハマつていて、次はその本を紹介したいと思っています。次はこの調子で次回も頑張りたいです。」

Cくん

「僕は司会をしました。司会から見ると、いつも楽しそうにしている人も緊張していて、ほほえましかつたです。実は、僕は今、ある本にハマつていて、次はその本を紹介したいと思っています。次はチャンプになつてやる！」

● 生徒の紹介した本

①『ネイマール 父の教え、僕の生きかた』
ネイマール、ネイマール・ジュニア、マウロ・ベティング／著 2014年

徳間書店

②『君がいてくれたから

日本一しあわせなどうぶつ病院の話』
北尾洋子／著 2013年

幻冬舎メディアコンサルティング

(第六中学校図書館司書 名村 恵)

「ビブリオバトルは、どんな言葉を使って相手を引き寄せられるかや、その本にあつた表現を工夫することが難しかつたです。人前に立つことが得意な僕でも緊張したことを覚えています。今回のビブリオバトルは制限時間内に終わることができたり、とてもうまくいったので、この調子で次回も頑張りたいです。」



人権学習の取り組み紹介

聖母被昇天学院のアイヌ民族学習会

した。

平成27年（2015年）11月19日（木）
会場 聖母被昇天学院

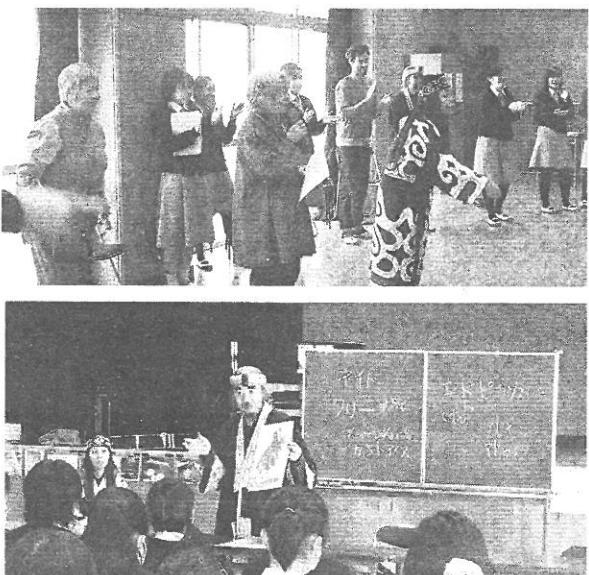
講師 川村シンリツ・エオリパック・アイヌさん
平田幸さん

聖母被昇天学院では、中2地理と高2日本史の特設授業として、「アイヌ民族学習会」が続けられています。過日、高校2年生の授業を拝見しました。

講師は川村シンリツ・エオリパック・アイヌさん。旭川在住で民族文化の保存やアイヌ語指導などで活躍中です。

アイヌ民族はアイヌシモリの先住民族です。アイヌ語で「アイヌ」は「人間」を、「アイヌシモリ」は「北海道・千島・樺太地域」を意味します。固有の文化を育み、独特的な文様（アイヌ文様）や口承文芸（ユーカラ）などが特に知られています。江戸時代以前、ロシアや中国との交易で豊かな暮らしをしていました時代の話から、江戸期の松前藩等によるアイヌ民族支配、さらに明治政府による同化政策や民族文化禁止政策等、アイヌ民族を苦しめてきた歴史について、具体的な事実を一つ一つ示しながら説明されていました。

川村さんの祖母は屯田兵の子どもだそうです。入植しても気候等の厳しさに耐え切れず逃げ帰る和人（アイヌ以外の日本人）が多く、その際、1万人もの子どもが置き去りにされました。アイヌの人々はその子どもたちを自分の子どもとして育てたとのことです。



講演に続いて、アイヌ民族で東京在住の平田幸さんによる伝統的な歌、踊り、遊びが紹介されました。繰り返される素朴な歌と踊りは、続けるうちに味わい深くなります。遊びは勝敗を競うもので大いに盛り上がりました。

現在、アイヌ民族が直面する最大の問題点は差別と貧困です。減つてはいるものの



就職差別、結婚差別はあとを絶ちません。「アイヌ文化振興法」で文化面では改善されましたが、貧困問題も依然として残っています。長年の差別による就労や教育面での格差と貧困の連鎖を、国の責務として断つたための法制度も必要ではないでしょうか。聖母被昇天学院は人権尊重の教育も充実しています。人権ホールームは中高6年間を見通し、全校学習会は「人権落語」や「全盲のテノール歌手の「ンサート」」など、楽しく含蓄ある企画があります。2008年発行「はじける」（じる）vol.19」にも紹介された、生徒による野宿者支援「釜ヶ崎の夜回り」は今年で30年間継続されています。チャリティーテーでは各地作業所の製品が販売されます。聖歌隊、ボランティアグループ、平和と人権グループなども部活動として社会貢献しています。

生徒会活動やホームルーム活動など、生徒たちで全てを運営し、誰もが積極的で伸びやかです。特設授業でも進んで踊りや遊びに参加し、質疑応答も活発でした。学校の良さを目の当たりにでき、爽やかな学校訪問でした。

（編集委員 長瀬尚）

掲示板

平成27年度イキイキさわやかに学ぶ会報告

今年度も人権について考える機会となるように、様々なテーマで開催しました。

第1回「携帯・インターネットに潜む危険について」

第2回「精神障がいを知ろう～思春期・青年期におけるメンタルヘルス～」

第3回「大人も子どももイキイキ生きる～CMを見ながら考えてみませんか？～」

第4回「気づかぬうちに差別していませんか？～今学ぶ、部落問題～」

第5回「みのお市民人権フォーラム30th」

第6回「“ふつう”的日常から一歩深めて考える人権」

多数のかたに参加していただき、ありがとうございました。来年度もよろしくお願ひいたします。

人権教育推進会議情報紙 はじけるこころ

発行 箕面市人権教育推進会議 TEL 072-724-6921 FAX 072-724-6010
箕面市教育委員会 人権施策課 E-mail edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

ご意見、ご感想等がございましたら上記宛先までお寄せください。
ホームページ <http://www.city.minoh.lg.jp/edujinken/jinken/jinken.html>



***** キリトリ線 ✂ *****

はじけるこころvol.41はいかがでしたか？

みなさんのご意見、ご感想をお聞かせください。下記にご記入の上、ファックスでお送りいただくか、または、郵送またはメール（edujinken@maple.city.minoh.lg.jp）にて、お送りいただいても構いません。今後もより人権教育に関心を持っていただくことのできる記事を掲載していくたいと思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集委員一同お待ちしております！

FAX 072-724-6010

mail: edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

①ご意見・ご感想

②お名前(無記名でも構いません。)

③「はじけるこころ」はどこで手に入れられましたか?
お子さんが持ってきた・公共施設・その他()

④はじけるこころに掲載する場合がございます。 揭載OK · 揭載不可

*頂戴した個人情報は、本誌のみで使用します。